

診断群分類点数表の見直しに係る基本方針について

平成 26 年 6 月 23 日 DPC 評価分科会における検討を踏まえ、DPC 検討ワーキンググループ（MDC 毎作業班、コーディングテキスト見直し作業班）における見直し作業の開始に向けて、診断群分類点数表の見直しに係る基本方針等について整理を行う。

1. 検討課題

(1) ICD-10（2013 年度版）に係る対応について

① 前回の整理

- 現行の DPC 制度は ICD-10（2003 年度版）を元に運用されているが、平成 27 年 1 月頃に ICD-10（2013 年度版）が告示される見込みとなっており、DPC 制度における対応について検討が必要である。
- 国際疾病分類が活用される分野
 - A) 死因統計
 - B) 疾病統計（医療機関における診療録管理）
 - C) DPC 包括支払制度
- ICD-10(2013 年度版)に係る今後のスケジュール
 - ・ 平成 27 年 1 月告示（予定）
 - ・ 平成 27 年 4 月頃最終修正版（予定）
 - ・ 平成 28 年 1 月もしくは平成 29 年 1 月より人口動態統計での施行（予定）
- なお、標準病名マスターの整備等については、現時点では未定である。

② 今後、DPC/PDPS への ICD-10(2013 年度版)の導入に向けての課題

- I. ICD-10(2013 年度版)により定義表に基づく診断群分類について、包括点数設定が可能であること
- II. 医療機関の ICD コーディングの実施において混乱が生じないこと

③ 対応（案）

【考え方】

- ・ DPC/PDPS への導入には、上記②の課題を解決することが必須である。
- ・ ②-I に係る対応
 - 統計情報部において円滑運用に向けて ICD-10(2003 年度版)と ICD-10(2013 年度版)の対応表の作成が検討されており、DPC の定義表と対応表との整合をとるべき。
 - 対応表の完成に関しては現時点では未定。対応表が完成した上で、それを踏まえ、DPC の見直しをすべき。

- DPC 検討 WG において国際疾病分類の専門家を新たに任命することとされており、ICD-10 コードと DPC コードの割振りに関しては、今後 MDC 作業班の国際疾病分類の専門家の意見を踏まえつつ取り組むべき。
→ICD-10(2013 年度版)コードの DPC コード再割振りに係る作業量は現時点では不明。少なくとも変更のあるコード(約 900 程度)に関しては一つずつ吟味し、各 MDC 作業班での作業が必要となる。

- ・ ②-II に係る対応

- 医療機関における ICD コーディングのシステムの多くは標準病名マスター((財) 医療情報システム開発センター (MEDIS-DC)) が搭載されている。
→標準病名マスター((財) 医療情報システム開発センター (MEDIS-DC)) の整備状況を勘案しつつ検討をすべき。

- 上記を勘案すると、現時点でのスケジュール上 H28 年度改定での対応は課題が多いため、次々回改定以降の対応とすることも含め検討してはどうか。

(2) 重症度を考慮した評価手法 (CCP マトリックス) について

① 前回の整理

- CCP マトリックスの手法を用いることにより、副傷病や重症度分類等の変数を導入することにより、重症度に応じてより診療実態に即した包括評価を行うことができると考えられる。
- 平成 26 年 6 月 23 日の DPC 分科会において、伏見委員より CCP マトリックスについて報告があった。

② 今後の対応 (案)

【今後の導入に向けたスケジュール】

- ・ H26 年秋頃より MDC 作業班において試行導入する分類における変数の整備に関して議論する。
- ・ H27 年度早々より保険局医療課において対応コードの決定、完成イメージの作成。
- ・ H27 年春頃より完成イメージを各 MDC 作業班へ提示、了承を得る。
- ・ H27 年度内に保険局医療課において CCPM を含んだ樹形図、点数表の作成。
- 導入を検討する MDC は症例数が多く、一定の研究成果が報告されていることを踏まえ、MDC01(脳血管疾患など)、04(肺炎など)、05(心不全、虚血性心疾患など)、06(結腸、直腸の悪性腫瘍など)、07(リウマチなど)、10(糖尿病など)、12(卵

巢、子宮の悪性腫瘍など)としてはどうか。

- 14 桁コードの上 10 桁に関しては従前と同様、ツリー図による構造を維持し、原則として下 4 桁に対応する範囲に関して CCP マトリックスによる精緻化を検討することとしてはどうか
- MDC 作業班において、臨床家の観点を加味しつつ、CCP マトリックス導入の検討を進める事としてはどうか。

(3) DPC 検討ワーキンググループ (MDC 毎作業班、コーディングテキスト見直し作業班) における検討課題について

① 診断群分類の見直しの基本方針

1. 医療資源同等性が担保されている (医療資源の投入量が適切にグルーピングされている (在院日数、包括範囲点数))
2. 臨床的類似性が担保されている (臨床的な観点から問題・違和感が少ない)。
3. 分類は可能な限り簡素であり、分類のコーディングに際して、臨床現場の負担が少ない
4. その他制度運用上の問題が生じない。

② 具体的検討内容

1. ICD と DPC 上 6 桁の組み替え
2. 手術の見直し (対応コード、フラグ)
3. 手術・処置等 1、手術・処置等 2 の見直し
4. その他 (コーディングルール、点数設定方式 D のあり方、CCP マトリックス等)

③ CCP マトリックスについて

- 診断群分類について、臨床家の同意が得られた場合に検討を行う。

④ 今後の検討のスケジュール

平成 26 年秋頃	第 1 回 D P C 検討ワーキンググループの開催
平成 26 年度内	M D C 毎作業班において調査票等の配布 (参考資料として、診断群分類毎の平成 25 年度分データを配布)
平成 27 年年明け早々	調査票の提出締め切り
平成 27 年春頃～夏頃	MDC 毎作業班会議の開催 (平成 26 年 7 月～12 月データに基づき検討配布)

【DPC/PDPS の検討に係る体制】

